

<学校教育目標> 自ら考え、主体的に判断し、行動する、心豊かで心身ともにたくましい子どもの育成

め の と  10月 神無月

長崎市立女の都小学校 学校だより 行事たっぴり号
令和4年9月30日 文責 校長：松田伊知郎

<めざす児童像>

-  あてを立ててすすんで学ぶ子
-  そみをもってたくましく生きる子
-  もだちとみがきあう思いやりのある子

秋の彼岸も過ぎ、校地内で栗の木を見つけた子供たちが栗拾いをしたり秋の虫を見つけたりと、学習や遊びの活動にも秋を感じるようになりました。校内では、4年生が「小音会」に向けて練習している「宇宙戦艦ヤマト」が朝から響いています。毎日少しずつパートごとに音が響くようになり、合奏という音の重なりもよくなってきました。秋の気持ちよい風と軽快なリズム、メロディで、気持ちのいい女の都小学校の一日が始まっています。芸術、運動、学習…いろいろな秋を満喫しています。

長崎市の申し合わせにより、10月1日から2月末日まで、児童の帰宅時刻が午後5時になります。昨今は子供の行方不明事件や事故が全国で起きていますので、帰宅時刻を守ることと合わせて御留意ください。

～ 小体会 全てが急成長です!! ～



小体会に向けて参加競技であるバスケットボールの練習に励んでいる6年生は、それぞれの努力に伴ってスキルも急成長しています。また、職員全員での熱い指導、下級生は昼休みの体育館使用を6年生の練習のための提供などで、サポート態勢もバッチリです。6年生の活躍を願う気持ちと小体会が実施されることへの感謝とを胸に、行事の意義を一層高めながら、女の都小学校全体が参加しています。

時間が許される方は放課後練習などの参観にいらしてください。

本来であれば、競技会場で子どもたちが生き生きと躍動する姿を多くの保護者に参観いただき、一生懸命に頑張る子どもたちに激励を賜りたいところですが、不特定多数の大人数が一度に集まることにより新型コロナウイルスの感染リスクが高まるとの判断から、苦渋の決断で無観客実施にしています。御理解のほど、よろしくお願いします。

《無観客開催の理由》

- 1 新型コロナウイルスの感染者数が、夏の時点においても4000人を超えており、小学生への感染も広がるなど、大会自体の開催が危ぶまれた中、最大限の感染防止対策をとる必要があったため。
- 2 今年度は、かきどまり陸上競技場のメイン会場が工事のため利用できず、観客席に余裕がない補助競技場の使用となり、観客を入れての実施が困難であるため。
- 3 バスケットボール競技、サッカー競技の会場である各小学校では、当該校児童が通常の学習活動を行っており、校地内の十分な観客収容スペースが設けられず、児童と観客の接触に伴う感染リスクの増加等が懸念されるため。



～ ただいま!! 修学旅行(6年)・野外宿泊学習(5年) ～



9月14日～15日、6年生が修学旅行に、9月26日(月)～28日(水)、5年生が野外宿泊学習に行ってきました。暑さや台風などの天候、新型コロナ感染を含めた体調等、様々な『敵』がいる昨今ですので、いつ、どんなことが起きるのかわかりません。その中であって全員が無事に、そして有意義な学びをして帰ってくるという『安定感』はすごいです。「何事もない」ことは、もはや普通のことではなく、すごいことになる世の中だとつくづく感じます。しかし、そこには引率教師、旅をよい学びにし快適にくださった業者の皆さん、バスガイドさん(修学旅行)や運転手さん、そして何より子供たちの体調や気持ちを万全に整えてくださり、万が一の場合にも備えてくださっていた御家族の皆様の支えがありました。子供たちも感謝の気持ちで行事の成功を喜び、自己の成長につなげることができました。

6年生は、普段の生活から自主性が高まってきています。朝の時間の過ごし方、各授業での態度など、それを感じる場面はたくさんありますが、修学旅行で一番感じたのは『時間厳守』の態度です。慌てる場面がほとんどなく、ほぼ全員が意識して生活していました。日頃からの「5分前行動」などの時間を守る意識を感じる6年生ですので、無理なく行事でも生かすことができました。また、各所での児童代表者の挨拶も、周囲の様子を感じながら短い文章で自分の思いを伝えることができていました。雄大な自然の中で本物に触れあいながら、「非日常」を感じ、「体験」を行ったことも、それぞれの心を揺さぶったようです。玖珠ICから日田や九重を感じつつ北側から阿蘇に入り南阿蘇で活動をして阿蘇の外に出るルートでしたので、阿蘇の中央部だけでなく北側と南側とで違う景色(自然)や人の暮らしぶりを感じることもできました。地震災害の爪痕やその後の復興の様子を目の当たりにし、防災の学びもすることができたことはよい学びになりました。

5年生は、2泊3日の長い時間を級友と共に過ごす体験、そして日吉自然の家という自然の中において日常の快適な生活ではやらないような体験を敢えてしてきました。引率教師の話では、様々な活動を通して『時間を守る』『人の話を聞き反応する』意識が高まったことが収穫だったようです。学校に戻ってきてからのそれぞれの日焼けした顔から発せられる返事や歌声が、何となく力強さを増したように感じるのも頷けます。連続する慣れない活動を、仲間と試行錯誤して取り組んだことは、今後の学校生活に必ず生きます。

良好な人間関係や自分としての良さ・強味を発揮することを集団生活の中で見せてくれた5・6年生は、「日常での行いを行事に生かす」や「行事を通して成長する」を体現しました。個性が、学年という集団(社会)において反発せず、解け合ってきていることは素晴らしいと感じます。「溶ける・融ける」と無くなる個性も、「解ける(理解し合う)」ことで、無くなることなく円滑・円満な集団生活の中で生き続けています。もちろん完成形ではありませんので、まだまだ今後の様々な活動の中で高めていきます。今後、「行事での学びを日常生活に生かす」、そしてそこからの「日常での行いを行事に生かす」…と、より高まるスパイラルに突入して年度末を迎えてくれることでしょう。毎日の成長と共に、集大成となる半年後を楽しみにしています。

～ 学校外でも頑張っています!! おめでとうございます!! ～

9月4日に行われた「長崎市少年剣道錬成大会」において、本校児童が副将を務める団体「志成会」が、日頃の鍛錬の成果を発揮して下記の成績を収めました。

《小学生の部》 優勝 「志成会」 副将 さん(女の都小6年)

